

主イエスの十二弟子の中で、特に重んじられていたのが、ペトロ、ヤコブ、そしてヨハネでした。主イエスは特に大切な場面、大きなことを示そうとされるときにはこの三人だけを連れて行かれました。これは三人にとって名誉なことだったでしょう。弟子にとって自分の師に認められ、信頼されること以上のことはないからです。本日の福音書の箇所は、ヤコブそしてその弟であるヨハネが主イエスに自分たちのことについて願い出た場面が選ばれていました。

「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください」。

二人は、主イエスが将来政治的な支配者となって、ローマの圧政に苦しむユダヤの国を救ってくれるのだと思っていました。ローマ帝国がユダヤを植民地化して約一世紀、人々は重い税金等に苦しんでいたのです。主イエスが登場されたとき、人々がそのような期待をしたのは無理からぬことだったのです。

このような二人と主イエスの会話が続きます。

「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか」。彼らが、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ」。

主イエスは十字架につくため弟子たちとともにエルサレムに向かっている途中でした。この出来事は、その旅も最終段階に入っており、エルサレム到着を直前に控えた時のことでした。主イエスは、自分は政治的支配者としてこの世に来たのではなく、人間誕生以来人間の奥深くに入り込んでいる罪から人間を解放するため、この世のものではない永遠の命や価値、恵みを示し、現実のものとするために来られたのです。十字架の覚悟を決められようと主イエスがされている時、ヤコブとヨハネは自分たちの野心を主イエスにぶつけていたのです。主イエスは彼等の無理解を前にしながらも、彼らを愛し続けられ、やがて彼らを待ち受けている使命を暗示されたのです。二人は野心をもっては

いましたが、人生が終わるまで主イエスを証し続けました。ヤコブは殉教することになりました。ヨハネは、殉教はしませんでした。高年齢まで生き続けてヨハネによる福音書を記すとともに、伝道の苦難を担ったのでした。

二人がこのようなことを主イエスに言ったことで、弟子たちの間に争いが起きました。ヤコブとヨハネが他の弟子たちを出し抜き、利益を得ようとしているように思えたのでした。主イエスは彼等と呼び寄せて、天国における偉大さと、この世の常識の違いを示されたのでした。彼らにとって、この世の権力は身にしみていたことでしょう。ローマの圧制、ローマから派遣され、ユダヤの実権をすべて掌握していたポンテオピラト、悪政の限りを尽くしていたヘロデ王家、この世の支配者が彼らの日々にも大きな影響を及ぼし、「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください」、と言わせたのです。この世における偉大さの基準は権力であり、一人の人がどれほど多くの人を支配できるか、どれだけ多くの人に自分の意志を反映させることが出来るか、それほど多くの人が命令に従い、自分のために働くかであるのに対し天国では、偉大さの基準は奉仕であり、人々への奉仕のために自分自身を従わせることが出来るかであるのを、主イエスは示されたのでした。

2000年以上を過ぎた現在、今私たちの生きる社会は、ユダヤの国比べてどうであるか、まず考えてみたいと思います。少ない働きでなるべく多くのものを得ようとする人が多い中で、他の人のため奉仕したいと望むとき初めて、彼自身の、そして他の人々にとっての人生が、幸せな将来あるものになるということです。効率よく、少ない努力で多くのものを得ようとしているならば、決して永遠の存在に出会うことは出来ないと言っているのです。聖歌251番を皆様もよくご存知であることと思います。この歌詞の中に「主の深き悩みこそ、わが罪のなだめなれ」という言葉があります。十字架の覚悟を深めながらエルサレムに向かっていた主イエスに対し、重んじられていた弟子であるはずのヤコブ・ヨハネは主イエスへの無理解を示してしまいました。この場に及んで何ということであるかと私たちは思いますが、今の自分を振り返ってみる時、この二人とどれだけ違っていると言えるでしょうか。聖歌の通り、私たちも主イエスをこの二人と同じように悲しませてはいないでしょうか。このような私たちのために主は十字架についてくださいました。そして永遠の命への望みを示してくださいました。この二人の態度に私たちが心を痛めるとするならば、私たち自身もまた、主の御心を痛めることのないよう努めてまいりたいものであります。